

留学報告書



福島県立医科大学 医学部4年 滝明理

はじめに

私は4月13日から5月11日の約1ヶ月、シンガポール国立大学(NUS)へ留学してきました。とても有意義なものとなりましたことを、この報告書にて報告させていただきます。この報告書を読んで、留学に興味を持ってくだされば幸いです。

目次

- CenMEdにて
- NUHの肝胆膵外科にて
- 観光
- この旅で学んだこと

- CenMEdにて

4月15日から4月26日の2週間は、CenMEdというところで学びました。CenMEdとは‘Center for Medical Education’の略で、福島県立医科大学でいう医療人育成・支援センターです。ここでは、医学生に施す医学教育について研究していて、学生に直接アプローチするだけでなく、学生を教える教育者にもアプローチしています。具体的には、Reflection(反芻)、assessment(評価)、discussionの重要性、empathy(共感性)の養い方などについて、教わりました。より良い医学教育のために、学生・教員は教育についての反芻を行って、それを評価して、それを次に生かしてより良い教育に反映させる、ということの重要性を学びました。私は今まで反芻することや、自分自身の成果などを評価し、次に活かすということの重要性を知らなかったので、とても新しく、ためになりました。

最初の数日は、小児の模型を使った救急のシミュレーションを見学しました。私たちは肺に嚢胞がある子どもの症例と、卵を食べてアナフィラキシーで苦しんでいる子どもの症例を見ました。監督者1人~2人、研修医6人ほど、看護師3人ほどで、一つの症例に取り掛かっていました。英語がとても早くてついて行くのが大変でしたが、日本でこういったシミュレーションを見たことがなかったので、とても新鮮な経験ができました。先生、看護師の方々が実際に緊張感を持って取り組んでいたのも、臨場感があり、これを何度もやったら力が付きそうだと思います。

また、シンガポールでは何月かに一回、職場にて健康増進のためにWellness dayという日があります。この日には、皆で運動をしたりするそうです。私たちが訪れた時にたまたまWellness dayがあり、この日は特にこれといった健康的なことはしませんでした。CenMEdの人にランチに連れて行ってもらい、Science Parkを訪れました。

あるカリキュラムをデザインするワークショップにも参加させていただきました。参加者はほとんどが薬剤師の方で、他にも数人の医者や先生がいて、皆何かしらの形で教えるということに携わっています。私たちがデザインした6週にわたるカリキュラムでは、学生にいくつかのグループに分かれてもらい、講義のあとにディスカッションを存

分にしてもらいます。ディスカッションを通して薬物中毒者へのempathyを養うことが目的です。カリキュラムの中には、薬物中毒者と接する機会のある野外活動、自分がグループの中でうまく振る舞えたかどうかを反芻するReflectionの機会、グループ内にこっそり紛れ込んでいる秘密の評価者によるassessmentなどもあり、CenMEdで学んだことを組み込むことができ、いい総復習の機会になりました。

最後の日には、福島についてのプレゼンをした後、Fish head curryを食べに連れて行ってもらいました。プレゼンの発表を聞いてくれたのは1人の先生だけでしたが、きちんと福島のことについて伝えられたと思います。

この2週間はとてもゆったりとした時間を過ごすことができ、CenMEdの方にもすごく良くしてもらいました。

- NUHの肝胆膵外科にて

後半の4月29日から5月10日の2週間は、NUH(シンガポール国立大学附属病院)の肝胆膵外科にて過ごしました。私たちはGao先生という方について周り、問診や回診、カンファレンス、手術の見学をさせていただきました。Gao先生はとても穏やかで優しそうな方でした。外科での2週間は、CenMEdでの2週間とは打って変わり、かなり忙しく体力的にも大変な2週間でした。

外科での2週間の感想は、とにかく医療英語が早くて難しくて、ついていくので精一杯ということ、シンガポールの医者はとても忙しいということです(まだ日本で実習を行っていないので、日本の医者とは比べられないのですが、)。現地の実習で回っている学生に教えてもらったりしながら、先生が患者さんと、先生同士で話していることの理解に努めていました。

シンガポールは多国籍国家であり、公用語が4つあるため、患者さんが話す言語も様々で、先生が患者さんの母国語で話すため、2ヶ国語以上話せることにまず驚きました。問診でも、まず“English or Mandarin?”と聞いていたり、回診でも患者さんのベッド脇に“Engilsh”や“Malay”などと書いてある言語に沿って話していました。先生がその言語を話せないときは、回診で一緒に回っている看護師さんに翻訳してもらっていました。中国語の問診などもあって、ついて行くのが大変でしたが、先生方も英語の方が慣れているようで、中国語はそれに比べるとまあまあ、といった印象を抱きました。

手術室では、執刀する先生の好きな音楽が流れていること、後ろで見学している看護師さんや学生の雰囲気が和気藹々としていることに驚きました(もちろん先生にもよると思いますが)。私たちは主に胆嚢摘出術を見学しました。

一番驚いたのは、現地の学生のレベルの高さです。私たちと同じ時期に、Gao先生について回っているNUSの学生(4年の春休み中)と話したりする機会がありました。シンガポールの医学部は5年制で、実習が2年の後半から始まります。患者さんと接する機会は1年生からあるそうです。そのためか、先生の間診の見学などが終わった後は、自主的に先生の持っている患者さんの元へ行って、自分たちで問診してみたり、身体診察などをしていたり、手術の時の縫合のお手伝い、症例報告などをしていました。同じ学年なのに、自分たちとは違いすぎるレベルの差に驚きました。

NUSの学生は優秀だけでなく、とても優しく、面倒見が良くて、たくさんのことを教えてもらいました。問診の見学などが終わった後に、一緒にご飯を食べて、お話しするのがとても楽しかったです。現地の学生と交流することができて、いろんな話で盛り上がって、自分の世界が広がったような気がしました。4月上旬に福島県立医科大学に留学にきていたKahJunにも、たくさんのところや、美味しいものを食べに連れて行ってもらいました。今度留学生が福島に来た時には、私もたくさんのところへ連れて行ったりしよう、と思いました。

- 観光

私が観光に行った時の写真を載せます。



綺麗すぎて驚いたマリーナベイサンズ。マーライオンもいます。



綺麗で可愛いプラナカン陶器



Bird paradiseにて、大量のフラミンゴ



日本の緑茶が恋しくなって買ったけど、甘くて衝撃的だったシンガポールの緑茶



FMUにも来ていた留学生のKahJunが、ガーデンズバイザベイに連れて行ってくれました。



本格的な中国茶を飲みに行きました。



活気のあるリトルインディア



美味しくて可愛いボボチャチャ。上にカラフルなタピオカのような食感のものが載っています。



外ウー入れちゃいました(うそ)。

- この旅で学んだこと

CenMEdで学んだ、Reflection、assessmentを大事にしていきたいと思います。最近勉強や普段の生活においてそれらを意識するようになっているのですが、それによって少し自分が成長できている気がします。

また、CenMEdの方々、学生の皆さんに大変良くしてもらったので、私も将来何かを返せるよう、成長したいと思いました。

長いようであっという間の1ヶ月でした。家族以外の誰かと2人きりなのは初めてで、一緒にシンガポールへ行った横田さんにもたくさん迷惑をかけてしまいましたが、とてもいい旅となりました。行かせてくださった先生方、大学の方々、ありがとうございました。この経験をぜひ今後活かしたいと思います。